

第6回  
県立都市公園のあり方検討会  
明石公園部会

2022年10月6日（水） 10:00～16:00

@明石市役所

# 明石公園の使い方・楽しみ方

- ドングリを拾える場所を大切にしたい
- 夜に昆虫の観察
- **こどものみる視点**で公園の楽しみ方・使い方を考えたい
- 暑い夏，寒い冬も**楽しんで歩ける環境**
- **健康**ウォーキングでも人気のコース
- **四季折々の環境**を楽しめる憩いの場
- 目的行動で公園を利用している人だけでなく，**なんとなくブラブラ**している利用者が多い
- 街中の自然のなかで**何をしてもなく過ごす**ことのできる公園
- 公園が，**誰に，どのような「楽しまれ方」**をしているのかをふまえることが大切

# 樹木の管理について

- 公園内のナラ枯れに対する予測と対応を
- 昆虫の生息状況と樹木管理の目標を関係づけて考える
- 天守台付近のシンボルとなる樹木を保全
- 景観・環境の観点から管理が必要な樹木は剪定を行う
- 切ったあとの樹木の利活用方法も検討する
- 樹木の状態をみながら土中環境を把握し、適切な樹木管理を行う必要がある
- 明石公園の南側はキノコの宝庫（北側は少ない）

# 樹木と石垣の関係

- 石垣と樹木が共存して，明石公園の風格が保たれる
- 樹木を伐採することによって根が腐り，空洞ができ，石垣が動く危険性があるのでは
- 自然の樹木の力を活かした工法によって，石垣を守ることはできないか
- 樹木と石垣との関係についてモニタリングが必要

# 動物の生息環境

- 駅からすぐの場所でカワセミ，アオバズク，ツグミ，ハイタカなど多様な鳥と出会える環境
- 野鳥のエサとなる実や昆虫が多く，隠れる場所も多い
- 豊かな森のなかに水辺があることで多種多様な生き物が支え合って生息している
- 外堀に多く生息しているカモをシンボルに
- 多様なトンボが生息する環境を保全
- 希少種が多いことを活かすためには普通種も大切にする
- 昆虫の生息環境のためには樹木が必要
- 環境が変わることによって増える昆虫もいれば減る昆虫もいる

# 環境管理の考え方

- 長い時間(数十年～数百年)をかけて自然環境を育てる
- 生物多様性の保全を基本として、多様な動植物の生息環境を実現する
- 県民の庭として、稀少な動植物だけでなく、あたりまえの自然をまるごと大切にする（普通種の昆虫，1本の木も大切に）
- 管理の目標として「現在の環境を大切にしていく」
- 先人が守ってきた史跡が自然のなかであり，人が憩えて，スポーツもできる「インクルーシブな公園」として
- リノベーション計画のなかでも自然環境，生態系，環境教育の観点を組み込んでほしい

# 公園管理・運営の体制について

- 立場を越えて協働で管理作業を行っていけばよい
- 「明石公園草刈り応援隊」が結成されて活動を開始
- 市民，利用者がやりたいこと，できることを，県や市，他の関係者と連携して進めていく
- 市民が公園の管理・運営に参加するしくみをもっと強化できないか（市民の活動を行政が下支えする）
- 計画づくりの意思決定のプロセスに市民が参加することが大切
- 明石公園の多様な情報を集約して発信する「ネイチャーセンター」のような機能を市民主体で計画していく（コーディネーターの職能も必要）

# 自然環境の機能

- 温暖化など地球環境問題の解決に貢献する場として
- 適切な土壌と水循環を担保するための環境づくり
- 利用する人の健康増進に貢献する環境(人と動植物の健康を一体のものとして考える)